

第1回宗像市道路網整備計画策定委員会

議事要旨

■日 時：令和6年11月20日（水）15:15～17:00

■場 所：宗像市役所2階 201会議室

■出席者：

会 長	九州工業大学大学院工学研究院 教授	吉武 哲信
副会長	九州大学大学院工学研究院 准教授	大枝 良直
委 員	九州産業大学建築都市工学部建築学科 教授	日高 圭一郎
	国土交通省九州地方整備局北九州国道事務所 所長	掛田 信男
	福岡県建築都市部都市計画課 課長	西 亮
	福岡県北九州県土整備事務所宗像支所 支所長	高橋 祥之
	九州旅客鉄道株式会社赤間駅 駅長	出田 貴宏
	一般社団法人宗像観光協会 事務局長	品川 恭徳
	西鉄バス宗像株式会社 代表取締役社長	江口 正男
	市民代表	合島 明美
	市民代表	伊賀 美穂
	市民代表	國廣 由佳
事務局	宗像市都市整備部施設整備課	西島 彰尚、高山 正利、 佐藤 丈二、大坪 歩生

1. 開会

2. 議事録署名委員の決定

事 務 局：本日は、委員番号2番の大枝委員、3番の日高委員にお願いしたい。

委 員 一 同：異議なし。

3. 策定委員会の進め方について 【資料1】

委 員 一 同：質問、意見なし。

4. 前計画の概要及び評価等について 【資料2】

会 長：P7において、『前計画における幹線道路網整備計画の進捗率は約81%。一方で、「整備済」「事業中」の進捗率は約33%』とあるが、その算出根拠は何か。

事 務 局：P6の表中、黒文字「延長37.80km」を100%とし、赤文字「整備済10.00km」「事業中2.53km」「概成済18.11km」を足した値の割合が約81%である。また、赤文字「整備済10.00km」「事業中2.53km」を足した値の割合が約33%である。

- 委員：例えば、P7「混雑解消」に関して 47%が未着手である状態を次期計画に継承する
とした場合、道路交通の実態について、交通量等の状況に変化があると考え
る。
そこで、次期計画における「整備方針」の方向性について考えは。
- 事務局：前計画に係る評価や現状把握等を行ったうえで、本市のまちづくりにおいて目指
すべき将来像を踏まえ、また、国や県の計画等との整合を図ったうえで、「整備方
針」を定める。そのうえで、道路交通実態等の調査結果を踏まえた課題の整理、
その解決に向けた「目標」や「指標」を設定する考えである。
- 委員：道路は、「ひと」の動きや「まち」の配置と相まって機能するものと考え。その
ため、ターゲットや目標に応じた整備すべきネットワークを設定したうえで、「整
備すべき道路の延長」という指標が整理されると考える。このような視点を踏ま
え、次期計画の策定を進めること。
- 事務局：承知した。
- 委員：P8 来訪者数では、主に福岡県内からの来訪者の動きについて整理されている。宗
像市の場合、より広域的な来訪者（他県からの来訪者）をもターゲットにしてい
るという認識だが、そのような評価は行っているか。
行っていないのであれば、次期計画の策定に係る検討においては、県外等の広域
的な動きも把握した方が良いと考える。また、周遊性の評価に係るエリア設定に
ついて、検討願いたい。
- 事務局：P8 は、北部九州圏パーソントリップ調査（第 4 回、第 5 回）のデータを用いて、
2 時点比較を行っているものである。調査対象の圏域内（福岡県のほぼ全域、鳥栖
市、基山町）の動きをみており、圏域外となる広域的な動きは含まれていない。
今後、調査・分析する。
- 会長：パーソントリップ調査は平日データであることから、必要に応じて休日データの
調査・分析を願う。
- 事務局：承知した。
- 委員：P10 赤間駅への端末交通手段の変化にみられる徒歩の割合の増加や P12 人口の推
移における人口が維持されている都市は県内でも珍しく、宗像市立地適正化計画
による取り組みの成果とも考えられる。一方、高齢化の進展はみられる。
次期計画において、赤間駅等の拠点周辺の道路整備の方向性として、人を中心と
した道路整備のあり方や浸水等の災害リスクを踏まえた道路整備のあり方、この
ような視点を踏まえ、次期計画の策定を進めること。
- 事務局：承知した。
- 委員：次期計画における、具体の道路整備のあり方について、目指すべき道路像として、
車道幅員、歩道幅員、自転車通行帯等の規格を道路断面として示すなど、分かり
やすい表現を用いて策定を進めること。
- 事務局：承知した。
- 会長：次期計画では、分かりやすい表現となるように留意し、目指すべき道路像のイメ
ージは示しておきたい。

委員：次期計画では、高齢者や子どもたちが安全に通行できる道路整備について、検討すること。

事務局：承知した。

委員：次期計画では、道路整備と合わせて浸水等の災害リスクを踏まえた生活しやすい環境整備について、検討すること。

事務局：承知した。

5. 道路網整備の方向性に係る考え方について 【資料3】

委員：災害リスクを踏まえた道路網整備として、例えば、市内の救助や物資輸送の拠点、第一次・第二次救急医療機関等の拠点を結ぶ路線のあり方について考えること。
また、宗像市民の多くは、北九州都市圏や福岡都市圏へ通勤移動しており、最近では宮若市域への通勤等の交通量が増加していることから、市外周辺地域等への流動を踏まえた交通インフラのあり方について考えること。
さらに、コミュニティバスやオンデマンドバスに係る乗降場所の確保等、将来の公共交通のあり方を踏まえた道路整備について考えること。
最後に、人が集まれば混雑するものであることから、混雑解消は困難であると考え、混雑時間の短縮を図る観点をもって考えること。

事務局：承知した。

委員：市外周辺地域等との連絡という視点においては、東西軸の国道3号に加えて、高速ICとの軸について検討すること。
例えば、宮若市～赤間駅間の移動ニーズは高いが、現状では、公共交通での移動が困難であるため、レンタカー等による移動、あるいは、宗像市を通過しないルートでの移動が生じている。このような潜在的なニーズをどのように評価・分析するかを検討すること。

事務局：承知した。

会長：周辺地域において、特に多くの雇用を有する企業（場所）への移動に係る交通行動について、調査・分析することが望ましい。
例えば、道路拡幅等のハード整備対策より、車輛台数（自家用車）を減らすため公共交通網等のソフト整備対策の方が効果的であるという考え方もある。
このような視点を踏まえ、次期道路網整備計画と地域公共交通計画との関係について、両計画の位置付けを整理するなどし、次期計画の役割を明確化すること。

事務局：承知した。

委員：水災害リスクを踏まえた道路整備の視点について、「雨に強いまちづくりビジョン」における長期的な目標を踏まえつつ、一方、浸水は毎年発生し得ることを考慮し、代替路線や迂回路等についての考え方を検討すること。
また、今後は車輛の運転をしない方々の視点も検討すること。

事務局：承知した。

会長：前計画の整備方針にある「観光」の視点についてのご意見はないか。

委員：現状において、宗像市への観光来訪者に係る交通手段の大半は車輛という認識であるため、「観光振興」の視点では、企画や商品等のソフト施策を重視している状況である。

広義的な観点では、歩行者の安全性の確保に係る視点、特に通学路を含めた歩道整備について考えること。

事務局：承知した。

会長：歩行者の安全性の確保に係る基礎的データにおける全国的傾向として、高齢者の交通事故発生路線は「生活道路」に多いとされており、子どもも同様の傾向と考えられる。そこで、交通事故等データを調査・分析のうえ生活道路に係る視点を検討すること。

また、次期計画の期間を20ヶ年とした場合、電動キックボード等の新たなモビリティと道路空間の視点等、将来の技術革新や社会情勢の変化について、一定程度想定し、検討すること。

事務局：承知した。

会長：これまでのご意見を整理すると、総合計画にある「効率的な交通ネットワーク」の視点、また、高速ICを含め市外周辺地域等との連絡では「広域連絡道路」、「都市幹線道路」の視点、その他、都市計画マスタープランにある「歩行者・自転車ネットワーク」「通学路の交通安全」の視点や「水災害リスクを踏まえた道路網」の視点等を重点とする方向のご意見が多い。

このようなご意見を踏まえ、上位計画等との連関をみながら、事務局にて整備方針の柱について整理いただきたい。

事務局：承知した。

6. 実態等調査に係る考え方について 【資料4】

委員：まずは全体の動きを把握するため、自動車はもとより人流等の幅広いデータを活用した俯瞰的なデータ分析を行ったうえで、上位計画のニーズ等を重ね合わせた整備計画を検討すること。

また、生活道路の交通事故について、福岡県警は幅員別・市町村別データは公表している。一方、地域等の詳細データの取得を検討すること。

自動車だけに着目せず、様々な人流データ（携帯電話の位置情報データ等）を活用することも考えられる。

事務局：承知した。

委員：歩行者の流動はポイントの一つであると考え。例えば、赤間駅へのアクセスについて、定点観測と併せて時系列比較を行う等の手法を検討すること。

事務局：承知した。

会長：俯瞰的なデータ分析によって宗像市の課題を整理することなど、データ分析について様々なご意見があった。それらを精査して、分析・検討すること。

例えば、都市構造の可視化ツールを活用する等、本委員会における議論・コミュ

ニケーションがより促進されるよう、分かりやすい編集をお願いします。

7. 次回開催予定日

事務局：次回会議の開催は令和7年3月頃を予定している。

8. 閉会

以上